

世界旅打ち気分

●第66回・エプソムとグッドウッド

須田鷹雄



写真1) エプソムのコースは、とにかく広大



写真2) ヒラ開催のスタンド内は
けっこうカジュアル



写真3) 全くグロリアスでない
グッドウッドのレース風景

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

服装で来るべきか」というコーナーがある。開催日とエンクロージャー(区画)によっては厳しいこともあるが、それ以外はけっこう緩いことを御確認いただけたらと思う。リラックスして臨場していただきたい。続いてグッドウッド競馬場。サセックス、ナッソー、グッドウッドカップといった大レースが行われる競馬場で、夏の「グロリアス・グッドウッド開催」は景色の美しさで有名だ。

行ったのはまさにグロリアス・グッドウッド開催、17年のサセックスS当日にグリーンチャンネルのロケだったのだが、これが全くグロリアスでない体験になった。

というのも、当日がとてつもない暴風雨だったのである。その日アラブのレースに招かれていたアラブ・ムンロ騎手とのちにシンガポールの競馬場で会った際、「お前もあの日グッドウッドにいたの? とんでもない雨と風だったよな」と盛り上がりつつらしい風雨だった。ちなみにムンロ騎手の家族はグッドウッドまで行ったものの、車から出られないままで終わったそうである。

そんな天気だったので、写真も

オーストラリアの話が続いたので、今回は別地区の競馬場にしなればなるまい。リストを見てみると、アメリカはだいぶ在庫がなくなりつつあるのだが、ヨーロッパは意外に主要場が残っていたりするのに気付いた。

「ほほイギリス人」の合田直弘さんと同じ媒体でイギリス競馬の話をするのは気がひけるが、今回はイギリスの主要場を2場取り扱いたい。まずはエプソム競馬場である。

エプソムといえば言わずと知れた英国ダービーの施行場だが、私が行ったのはこれといったレースのない、ヒラ開催中のヒラ開催。そのぶん競馬場の隅から隅まで見て回ることができた。

競馬場の最寄り駅は、タッテナムコーナー駅のことだが1キロくらいあり、競馬場との間には徒歩しかない。一般的に使われるのはエプソム駅だと思うが、そこから競馬場までは2.5キロほどあり、坂もあるので徒歩で行き来するのは無理だ。この原稿を書くにあたって確認したら路線バスもあるようなのだが、おそらく開催日には競馬場直行のシャトルバス(有料)が出る

ているはずだ。

ほとんど撮れておらず、残念だ。コースも遠くがモヤッとしてよく見えなかったのだが、8の字に直線が付いたような独特な形をしている。長い距離のレースだとゴールに近いところからバリアーさえない形でスタートし、8の字の頂点のようなところで折り返してまたゴールに向かってくるというような設定もある。日本にはないタイプのコースなので、皆さんにもぜひ一度は体験してもらいたい。

そんな天気だったので、思い出話も限られる。そもそもサセックスSからして勝ち馬がヒアカムズホエンという、日本での知名度がほほない馬であった。7頭立て5番人気での優勝、かなり馬場は影響したと思う。たしか当日まで出馬表に入っていたチャールが、馬場を理由にスクラッチしたように記憶している。

予備日はないのでそんな天気でもロケは強行したのだが、外は雨だけでなく風もすごいので、屋内でしか落ち着いて撮れない。そこでなにかに食べ物食べて食レポっぽいことをしようとなり、売っていたキドニーパイを出演者3人で食べた。ここで飛び出た共演者、津島

キドニーパイを出演者3人で食べた。ここで飛び出た共演者、津島

行ってみた印象としては、英国競馬の伝統というイメージと違って、モダンで機能的な競馬場という感じであった。09年に大改修があつて1万1千人収容のスタンドができたので、それにより大きく変わったのだらう。

場内の飲食店にもメキシコ料理があつたりして、時代が変わっていることを感じさせた。まず土台として「米・ナチョス・トルティヤカ

亜由子さんのコメントが、まさかの「……臭みがあります」。キドニーパイは牛や豚などの腎臓が入ったパイなので、実際に臭みはある。これが日本の競馬場ロケだったら業者さんに気を遣って「おいしい設定で」ということになるが、グリーンチャンネルでなにを言ったところでグッドウッドの売店に実害はないので、このコメントは素晴らしいかと思う。内臓の煮込みをパイで包んだということは、日本という「モツ煮込み井」と精神は同じ。皆さんが現地に行く機会があつたらぜひお試しいただきたい。

このロケ、ロケ隊の居場所としてパドック脇のテントのようなところを他社と合同であてがわれていたのだが、ここにも雨が吹き込んできて、全く休まるものではない。私は水切りの道具を借りてきてひたすら床の水を排水していたが、ふと横を見るとディレクターとカメラマンがさっきのキドニーパイを買ってきて、いわゆる「箸上げ」のカットを必死に撮っていた。後ろに雨が吹き付けている箸上げカットが使えたかどうかは確認していない。

いない。

「ソフ」のいずれかを選び、続いてメインの具を選ぶ。さらに6種類ほどあるソースというかトッピングを選んで完成である。英国の伝統皆無のメニューだが、正直なところイギリスの他の競馬場で食べたものよりウマかった。

もちろんイギリスなのでバーは充実しており、来場者はインドレスで飲んでいる。場内のモーターには「酒一杯飲んだら水かソフトドリンク一杯」という標語のようなものが映されていたが、来場者は誰ひとりその標語を守っていない。た。

コースのほうはというと、とにかく広さと起伏である。ラチの素材などは現代のものになっているが、おそらくそれ以外は昔から変わらないだらう。全景を見るには混んでいないヒラ開催はかえって良いかもしれない。

イギリスの競馬場、しかもエプソムとなるとドレスコードが気になる人もいるだらうが、ヒラ開催なら全く気にする必要はない。キレイ目のカジュアルくらいで十分だ。どうしても気になる人は、エプソムに限らず競馬場のHPを見ると、イギリスの場合は必ず「どうい